建設会報 いずも

No.121
2010年1月号

編集・発行人　（社）島根県建設業協会出雲支部
経営改善研究委員会

表紙の言葉

出　雲　神　楽

えと文／渡　部　良　治

島根県は250の団体を有する全国一の神楽県といわれ、中でも石見神楽は山陽側へも浸透し、演目に創意工夫が施され20代30代の若者中心に舞われ、週末には広島県北部のどこかで神楽の競演あるいは共演大会が行われています。

広島では、今や空前の神楽ブームといわれ、人気神楽団のオッカケがでるほどの熱狂ぶりで、島根県西部や広島県は重要な観光資源としてとらえ積極的な支援を行っています。

一方、島根県東部の出雲神楽は、若者の神楽離れや少子化により後継者不足に悩まされたものの、近年、出雲、雲南、斐川などのあちこちで神楽大会が催され始め、日本が世界に誇れる伝統芸能の一翼を担おうとする人たちに期待が寄せられています。

C O N T E N T S

▶巻頭言／中筋　豊通〔(社)島根県建設業協会出雲支部長〕…1
▶新年のご挨拶
／林　正道〔国交省出雲河川事務所長〕……3
／中川　哲志〔国交省斐伊川･神戸川総合開発工事事務所長〕…4
／佐野　卓司〔出雲県土整備事務所長〕……5
▶ホームページが変わりました……6
▶平成20年度施工優良工事表彰／表彰一覧、写真……7
▶優良工事表彰を受賞して／加本　雅美〔㈱フクダ〕……10
／奥井　正史〔今岡工業㈱〕……11
／田中　誠也〔㈱ナカサン〕……12
▶年男の抱負／長岡　秀治〔㈱フクダ〕……13
／手銭　弘明〔㈲神門組〕……14
▶技士会研修視察に参加して／妹尾　一臣〔大福工業㈱〕…15
▶経営研修会（笑顔と安全）に参加して
／原　佳文子〔(社)島根県建設業協会出雲支部〕…17
▶テレビでおなじみの　森田　実氏
講演内容「公共工事必要論」……19
▶編 集 後 記／三原　昇〔経営改善研究委員〕……26

「虎穴に入らずんば虎子を得ず =自立こそ、生き残る道なし」

(社)島根県建設業協会出雲支部
支部長　中筋豊通

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、「コンクリートから人へ」きつい一発でした。

東西約200キロ、山陰自動車道はいまだ開通してはいません。今年度道路予算が削減され、県内完成が10年遅れ20年代後半になりそうです。これでは整備不十分な一般国道９号に頼るしかありません。

医師不足が深刻な島根では患者を運ぶ大切な道であり、農・水産物を運ぶ道。また、観光立県島根のための都会をつなぐ道でもあります。

「命の道」「活力の道」を未整備のまま、山陰経済の活性化を計っていかねばなりません。現政権は３党連立ゆえ「身内への配慮」ということで迷走が続いていますが、地方へ、中小企業への心配りはないのでしょうか。

事業仕分けというパフォーマンス、ネットやテレビで中継され、世論の注目を集めましたが、仕分け人の人選、判定基準が曖昧な上、中長期の視点を欠くなど賛否両論です。しかも目標の３兆円には遠く及びませんでした。

鳩山政権は企業を支援し、経済を活性化する手法から、人に直接金を配分し、個人消費から内需拡大を図ろうとしています。

ご存知の様に年末の21日ようやく「決断しない首相」が判断を示しました。

① 暫定税率を2010年３月末で廃止。ガソリンなどにかかる税率は現行水準を維持する。
② 子ども手当は所得制限を設けず実施。不要ならば自治体に寄付する制度を創設する。
③ 環境税について１年以内に結論を出す。
④ たばこ税は増税。等々

マニフェストと財源の両面に配慮した折衷案で、指導力を欠き旗印を鮮明に出来ない政権の苦境が眼に見えるようです。

そんな中、2010年度予算案が閣議決定。一般会計　92兆2992億円「社会保障増　借金頼み」「財源不足　将来に不安」「家計重視　借金膨らむ」「ばらまきで、安心得られず」「公共事業費、削減に拍車」新聞の見出しです。政策実行のための一般歳出は53兆５千億円、いずれも過去最大。税収が約37兆円、国債の新規発行額も44兆３千億円に膨れ上がりました。

国土交通省や農林水産省などの公共事業費関係費の総額は、1978年度以来32年ぶりとなる低水準まで減額され、18.3%減の５兆7731億円。道路は原則として新規事業はなく、事業箇所数も２割減、まさに建設業界に取って厳しさを増す寅年になりました。

財源不足という現実を見れば以前のような公共投資は期待出来ないでしょう。しかし鳩山政権が行っている歳出改革に頼るだけでは限界があります。アンケートで「生活と雇用を支える安心安全な社会」のためには、恒常的な税源が必要であると多くの国民が答えています。選挙のための言動があまりにも多すぎます。消費税増税を４年間はやらない与党合意に縛られることなく、経済と企業を活かすために、税制の抜本改革をやるべきです。経済不況の中、大事なのは都会だけでなく、田舎の経済が、中小企業が自立回復できる日本のために、政府が決断を下す時です。

「虎穴に入らずんば虎子を得ず」身の安全ばかり考えていたのでは目的を達成することは出来ません。もちろん我々も地方も云うべきことは云う、やるべきことはやる。権利を主張するのではなく、責務を全うしなければなりません。

現政権に望むこと、公約より大局を、目先の対策ではなく中長期の成長戦略を示して欲しい。社会基盤整備のグランドデザインを明確にして欲しい。

農業、林業、観光、介護、環境、福祉、教育等々。転業、転職、兼業のためには中小建設業を支援すると云っています。困難な道なれど、さまざまな分野で中小企業だからこそ、やれることもあるはずです。また、地方の果たすべき役割もあるはずです。

皆さん、時代は変わったのです。

「自立」こそ、生き残る道なし。「創意・工夫」そして「決断」

危険を恐れず、前へ進んで行こうではありませんか。

ありがとうございました。

新年のご挨拶

国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所
所　長　林　正道

新年あけましておめでとうございます。(社)島根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましても穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には平素より出雲河川事務所の治水や河川環境整備の取り組みへのご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

出雲河川事務所の担当している斐伊川神戸川の流域は、農業をはじめ川からの恵みを受けて発展してきた反面、これまで幾度となく水害に苦しんできた地域です。

この斐伊川神戸川を治水、利水、環境の面から、長期的にどのような川にしていくのか、昨年３月に斐伊川水系河川整備基本方針が改定されました。そして、その段階的な実現に向け、今後の当面20～30年間における整備の目標、具体の整備内容などを定める斐伊川水系河川整備計画について、有識者及び流域の各市町長から構成される懇談会や、流域にお住まいの皆様の声を伺いながら、策定しております。

斐伊川中流において整備を推進しております斐伊川放水路につきましては、既に新たな河道の形が見えてきており、本年は、昨年着工した分流堰の本体工事など、平成20年代前半の放水路完成に向け、事業を推進して参ります。

宍道湖と中海を結ぶ大橋川の改修につきましても、早期に事業着手できるよう事務所一丸となって取り組んで参ります。

斐伊川水系の最下流部にあたる中海沿岸を洪水・高潮から守る湖岸堤の整備につきましては、近年の高潮による被害の状況を踏まえ、整備の緊急性の高い箇所から順次着工しております。

さらには、ラムサール条約に登録された宍道湖・中海の水質改善や自然環境の保全・創出を行う環境整備事業、河川管理施設の機能を十分発揮できるよう老朽化した施設の更新など、後世に残る良質な社会資本整備を通じて斐伊川流域の地域づくりに貢献するため、関係者の皆様と協力して取り組んで参ります。

最後になりましたが、本年における(社)島根県建設業協会出雲支部の皆様方の工事安全とますますのご発展を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

国土交通省中国地方整備局
斐伊川･神戸川総合開発工事事務所
所　長　中川哲志

謹んで新年のお慶びを申し上げます。(社)島根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申しあげます。

皆様方におかれましては、当事務所が建設事業を担当している志津見ダム・尾原ダムの推進に対しまして、多大なる御理解と御協力をたまわり、厚く御礼を申し上げます。

斐伊川および神戸川の抜本的な治水対策（３点セットと呼ばれる治水対策）の１つである、神戸川上流部の志津見ダムと斐伊川上流部の尾原ダムは、島根県東部地域の安全・安心を確保し、更なる発展に導くために必要不可欠な社会資本であり、昭和44年（1969年）に発表された島根県による「斐伊川・神戸川の治水および関係地域の開発に関する基本構想」に計画が盛り込まれて以来、約４0年が経過し、平成22年度は基本計画で定められた工期の最終年度を迎えることとなります。

志津見ダムは、昭和61年４月に建設事業に着手し、用地補償や付替え道路等の補償工事を進めた後、平成18年４月にダム本体コンクリート打設を開始し、平成21年３月には約41.6万㎥の打設を完了しました。平成21年10月から試験湛水を開始しており、平年並の降水量であれば平成22年の春先には満々と水を湛えたダム湖が出現し、洪水期までに試験湛水を終了する予定です。平成22年の洪水期からは洪水調節機能を発揮することとなり、島根県が実施された神戸川改修事業と合わせ、平成18年７月に当地で甚大に被害を発生した豪雨に対しても、地域の安全・安心を確保することになります。

尾原ダムは、平成３年４月に建設事業に着手し、用地補償や付替え道路等の補償工事を進めた後、平成19年９月から約66万㎥のダム本体コンクリート打設を開始し、平成21年12月末で約９割近い進捗となっており、平成22年春先の打設完了に向けて工事を行って参ります。そして、平成22年の秋頃には試験湛水を開始する予定としています。

平成19年５月に鎮定された志津見ダムの定礎石には「命の水　命のダム」「願い・豊かなくらし」という言葉が、平成20年３月に鎮定された尾原ダムの定礎石には「命育むオロチの泉」「水の恵みすべての人へ」という言葉が刻まれており、ダム事業のためにこの地を跡にされた地権者をはじめとする上流域の皆様方の想いが込められています。ダムの恩恵を受ける下流域に暮らす者として、上流域の皆様方の想いに応えていくためにも、ダムの試験湛水の開始を契機として、上流域と下流域の結びつきを強め、交流の促進と水源地域の活性化への取り組みが図られ、安全で安心な地域づくりの礎となることを願うものであります。

最後になりますが、本年におきましても会員皆様方の工事安全と益々のご活躍に対し祈念を申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

出雲県土整備事務所
所　長　佐野卓司

新年あけましておめでとうございます。出雲支部会員の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります公共施設の整備や維持管理事業に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことを心から御礼申し上げます。

さて、昨年８月末の衆議院選挙によって政権が交代し、「コンクリートから人へ」と政策方針が転換されたため、来年度の公共事業予算については、具体的な数字が見えてこない状況ながら、今年度に比べかなり削減されるという報道もされているほか、経済状況の悪化も加わって、公共事業を取り巻く環境は一段と厳しさを増すものと推察されます。しかしながら、こういった状況の中にあっても、道路や河川など県民生活に必要不可欠な社会資本の整備が依然として立ち遅れている島根県においては、積極的に整備を推進していく必要があると考えております。

昨年11月28日に山陰自動車道の斐川IC～出雲IC間が開通したことによって、高速交通ネットワークに組み入れられた当地域は、これを足がかりに今後大きく発展するものと思量されますが、さらなる発展を期するためには県西部地域も組み入れた高速交通ネットワークの早期形成が必要不可欠であると考えており、当事務所でも引き続き高速交通ネットワーク充実化のために努力して参ります。

また、本年もこれまでと同様に当該事業の優先度や重要度などのほかに、地域の方々からのご意見やご提案も考慮して効率的で有効性のある事業執行に努め、当事務所が所管している土木・建築施設や農林施設の早期整備を図ることによって、一日も早い安全で安心な県土づくりや民生安定の向上を目指して参りますので、引き続き関係の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、(社)島根県建設業協会出雲支部の益々のご発展と、会員の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

ホームページが変わりました!!

昨年10月よりトピックスで出雲支部が開催した事業を載せ、そこをクリックすると事業内容や写真が見れます。そして支部関係事業のスケジュールを新たに追加しました。また、今まで会員専用のサイトは、パスワードを入力しないとアクセスできませんでしたが、今回から会員紹介として誰でも見ることができるようになり、ホームページがある会社も閲覧できますので、是非ご覧下さい。

社団法人　島根県建設業協会出雲支部ホームページ（//www.shimakenkyo.or.jp/izumo/）

リニューアルしました!!

Welcome to Associated General Constructors of Shimane,Izumo Dept. !

ごあいさつ

私たち（社）島根県建設業協会出雲支部は、建設業を技術的、経済的及び社会的に向上させ、公共の福祉を増進することを目的に活動している団体です。

当ホームページにおいて、会員が地域社会の一員として、河川・道路等の環境保全・美化活動の協力など、社会貢献活動に積極的に取り組んでいる状況を掲載し、協会の概要と事業活動について少しでも多くの方にご理解いただければと願っております。

TOPICS

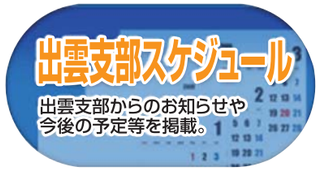
出雲支部 事業内容 NEW!

建災防出雲分会で夜間パトロールを実施しました。

2009.12.16

しっかり固定してあります

施錠をお願い！



クリックすると

2010年 1月スケジュール

1（金）	元日
5（火）	仕事始め
11（月）	成人の日
18（月）	10:00 新年互礼会、祈願祭
25（月）	13:30 現場代理人研修会
26（火）	14:00 新分野進出セミナー

｜新着情報｜協会の概要｜青年部のご案内｜会報のご案内｜地域づくり｜会員紹介｜リンク｜

社団法人　島根県建設業協会出雲支部
〒693-0028 島根県出雲市塩冶善行町2-2
TEL：0853-21-1187　FAX：0853-21-2454

Copyright (C) Associated General Constructors of Shimane,Izumo Dept., All Rights Reserved.
画像及び文章の無断転載・無断引用・販売等は固くお断りします。
E-mail:izumoken@orange.ocn.ne.jp

Copyright © 2000-2009, Associated General Constructors of Shimane,Izumo Dept.

平成20年度施工　島根県優良建設工事知事表彰

部　門	工　事　名	施工業者／代表者名	
道　路	(一)斐川出雲大社線(北神立橋) 地方道路交付金(橋梁補修)工事	株式会社フクダ	代表取締役　長岡　秀治
	(主)出雲三刀屋線　放水路橋梁工区 地方道路交付金(改良)工事	ヒロシ株式会社	代表取締役　扇子　勇次
河　川	神戸川　乙立地区　河川災害関連工事(上流工区)	今岡工業株式会社	代表取締役　今岡　余一良

平成20年度施工　優良工事表彰
◇所　長　表　彰◇

部　門	工　事　名	施工業者/代表者名		主任技術者
道　路	(一)出雲インター線　浅柄工区 地方道路交付金(交通安全)工事　第1期	株式会社ナカサン	代表取締役　藤江　和夫	田中　誠也
	(一)矢尾今市線　大塚工区 地方道路交付金(改良)工事	株式会社中筋組	代表取締役　中筋　豊通	奥野　崇
	(主)出雲三刀屋線　船津工区 地方道路交付金(交通安全)工事　第5期	有限会社嘉村建設	代表取締役　嘉村　義親	嘉村　栄二
	(一)佐田小田(停)線　小田工区 地方道路交付金(改良)工事	株式会社安井組	代表取締役　安井　和広	塚田　淳也
河　川	十間川　広域基幹河川改修工事　第1期	出雲土建株式会社	代表取締役　石飛　裕司	古瀬　康次
	神戸川　広域基幹河川改修工事 宇和佐工区(その1)	株式会社朝山技建	代表取締役　太田　正夫	加藤　清志

部　門	工　事　名	施工業者/代表者名		主任技術者
都市計画	今市古志線　地方道路交付金(街路)事業 照明灯設置工事	株式会社内村電機工務店	代表取締役　内村　順亮	該当技術者退社
	出雲市駅前矢尾線　地方道路交付金 (街路)事業　電線共同溝工事(その1)	株式会社中筋組	代表取締役　中筋　豊通	清水　渡
	今市古志線　地方道路交付金（街路）事業 道路改良工事	ヒロシ株式会社	代表取締役　扇子　勇次	西尾　光正
森林土木	平成19年度　林地荒廃防止施設災害復 旧事業(小田漁港)山腹工事	株式会社フクダ	代表取締役　長岡　秀治	該当技術者退社
農業土木	平成20年度　ふるさと農道整備事業 朝山地区法面工事	今岡工業株式会社	代表取締役　今岡　余一良	奥井　正史
	平成20年度　経営体育成基盤整備事業 浜八島地区　排水路工事	株式会社もりやま	代表取締役　森山　勝	加戸　伸一
建　築	県立中央病院　心臓カテーテル室等 改修(建築)工事	株式会社フクダ	代表取締役　長岡　秀治	池淵　充

平成20年度施工　優良建設工事表彰
◇主任技術者表彰◇

部　門	工　事　名	施工業者/代表者名		主任技術者
道　路	(一)斐川出雲大社線(北神立橋) 地方道路交付金(橋梁補修)工事	株式会社フクダ	代表取締役　長岡　秀治	加本　雅美
	(主)出雲三刀屋線　放水路橋梁工区 地方道路交付金（改良）工事	ヒロシ株式会社	代表取締役　扇子　勇次	後藤　和博
河　川	神戸川　乙立地区　河川災害関連工事 (上流工区)	今岡工業株式会社	代表取締役　今岡　余一良	石飛　春治

優良工事表彰を受賞して

㈱フクダ
加本雅美

この度、斐川出雲大社線（北神立橋）地方道路交付金（橋梁補修）工事において、優良建設工事知事表彰を頂いたことを、大変光栄に思っております。

また、今回の受賞は発注者の皆様、協力会社の皆様の支え、協力があったからだと深く感謝しております。

この工事は、北神立橋の斐伊川河川内５橋脚を、鉄筋およびコンクリートで巻き立て、耐震補強をする工事でした。

斐伊川河川内での工事施工は非出水期（10月20日以降６月15日まで）に限られており、この工事も施工開始から５か月間（年度内施工）ですべての工事を完了させなければなりませんでした。施工計画の段階で念入りに工程計画を立てていましたが、この年は例年にない積雪があり、その雪解け水が斐伊川に流れ込み、予想以上の出水がありました。盛土部分がかなり流されてしまいましたが、幸い、事前に増水対策をとっていたので、災害は最小限に抑えられ、工事は無事完了しましたが、常に水が流れているという自然相手では予想できないことが起こるため、労働災害だけでなく自然災害へも注意を払いました。

施工する橋脚は供用中であったため、高さの制限もあり、重機と既設構造物等との接触事故も懸念されました。毎日の朝礼、施工打合せ時に周知徹底し、接触が予想される場所に旗や目印をつけて注意を促したことにより、接触事故も無く、無災害で工事を完了する事ができました。

施工時期は冬季であったため、コンクリートの品質管理にも苦労しました。斐伊川河川内は思った以上に風も強く、気温も低くなるため、足場の周囲をシートで覆い、コンクリート打設後の温度低下を防ぎました。足場全体がシートで覆ってあったため、内部は温かく、作業環境も改善され、作業がスムーズに進んだと思います。

現在この業界だけでなく、女性の活躍の場は広がっていますが、家族や社会の理解や協力は不可欠だと思います。私はそのおかげで今まで続けることができました。そのことへの感謝の気持ちを忘れることなく、この受賞を励みに、これからも一層努力して仕事を続けていきたいと思います。

斐川出雲大社線（北神立橋）地方道路交付金（橋梁補修）工事

優良工事表彰を受賞して

今岡工業㈱
奥井正史

この度、平成20年度ふるさと農道整備事業朝山地区法面工事に於いて、優良建設工事表彰を頂き、大変光栄に思っています。

この工事は、出雲市所原町から出雲市見々久町へ跨る区間の道路拡幅に伴い、地山の不安定な土塊を逆巻き施工とグラウンドアンカー工で切土法面を抑止する計画でした。

今回の工事区間は、対面一車線の道路であるため、作業ヤードの確保が難しく、資機材の設置・撤去の際には、全面通行止による作業形態を要しました。

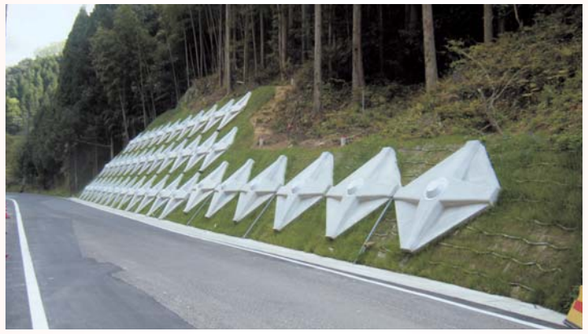
これにより、通行規制の必要性について、事前に地元近隣住民の方々並びに関係各機関に工事の内容と交通規制の説明を行い、御協力をお願いしました。交通規制による迂回路は、狭小でカーブが多様する不便な道路であるため、全面通行止の日程等について、毎月初旬に工事に於ける規制計画を配布し、近隣住民の皆様の御理解により工事を行いました。

工事期間中は、計画通りにできるかどうか心配な点はありましたが、地元の皆様とのコミュニケーションを密に行い、また、天候にも恵まれ大きなトラブルも無く、計画通りに工事を進めて行くことができました。

今回の工事では、作業中のヤード確保の問題の他に、アンカー工削孔中のドリフター打撃音の騒音対策、アンカー削孔時の汚水、セメントグラウト時の洗い水の汚水処理対策など様々な問題点に直面しましたが、作業方法の改善・工夫により対処することができました。

この工事の施工を通し、多くの方々が利用する生活道路への配慮と大切さを改めて感じることができました。

最後に工事完成に至るまで、ご協力を頂いた近隣住民の皆様とお世話になった県土整備事務所の皆様、工事を支えて頂いた協力会社の皆様に心から感謝を申し上げ、今回の工事で経験したことを今後の工事に役立てたいと思います。



平成20年度 ふるさと農道整備事業朝山地区法面工事

優良工事表彰を受賞して

㈱ナカサン
田中誠也

この度、出雲インター線浅柄工区地方道路交付金（交通安全）工事（第１期）に於いて、優良建設工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

これもひとえに、地域の皆様や発注者様、また協力業者の皆様にご尽力頂けた結果だと感謝しております。

数ある工事の中で当現場が特別な事をしたという訳ではありませんが、現場の雰囲気の良さと安全意識の高さは受賞に値したのではないかと自負しております。

今回の工事は、十間川に架かる浅柄大橋の架け替えの新規橋台（逆T式橋台）２基と、カルバート（L＝26.0m）による用水路の付け替えが主な工事でありました。

カルバートの施工にあたり３度にわたり現道を切り替えた際には、迂回路法線の緩和区間が短く急カーブになることから、法線の設定や有効な安全施設の配置について、様々な方から助言を頂き、何とか事故なく施工を完了することが出来ました。

県道切替えの度に、ひとつの工事が竣工したような充実感があった事を思い出します。

また、橋台工の施工においては、施工箇所が供用中の県道交差点部分に位置し、既設橋梁はもちろんのこと、高圧線・上下水道・ガス・温泉管といった様々なライフラインと隣接しており、鋼矢板締切内の掘削（掘削深8.5m）の際には施工ヤードの確保やライフラインへの影響について細心の注意が要求されました。

このような現場条件の中、創意工夫や地域貢献の重要度を理解し、積極的に協力いただいた結果、形式ばった提案ではなく、本当の意味でコストの削減や品質の向上に繋がる**【面白い提案】**が出来たように思います。中には、費用対効果が望めずに没になった案や、小手先だけの物も多分にありましたが･･･。

不況のおり世知辛い雰囲気の中、技術者としてのモチベーションと若干の遊び心を維持できたのも、日々の安全活動と関係者の皆様との良好なコミュニケーションの賜物であると考えます。

今後も、現場に即した技術提案力と柔軟な対応力を鍛え、現場条件の難しい工事においても**【さらっと】**こなせるよう、技術の習得と人間力の向上に励みたいと思います。

ご協力いただいた皆様大変ありがとうございました。

出雲インター線　浅柄工区
地方道路交付金（交通安全）工事　第１期

坂の上の雲

平成庚寅（かのえ）元旦

㈱フクダ
長岡秀治
（昭和庚寅元旦生）

新年あけましておめでとうございます。

全国技士会連合会が四国松山で開催されることを期に書き出したのでタイトルを「坂の上の雲」とし、青年のように夢を持ち、前をのみ見つめて歩む思いで綴ります。

今年の元旦を以って十干十二支（じっかん）を一巡りやっと還暦を迎え、人生の中間点に立ったような気持ちです。育ててくれた父母や恩師、お世話になった先輩や同僚など、60年間にお会いできた多くの人のお陰だと有り難く思います。

私の社会人のスタートはプロジェクトＸの原点ともいえる黒部第４ダムへの思いから始まったと言える。就職初年度より長野県黒部近くの国鉄中央線の難しいトンネル工事。動く山、凍る風、背中で桜吹雪が舞うやくざな鉱夫、およそ斐川では考えもつかないことでしたが、そのトンネルが艱難辛苦の上わずか１cmの誤差で貫通したときの喜びは何にも変えがたく一生涯を土木屋で送る序曲となりました。仕事が終われば完成したばかりの中央高速道にサバンナＧＴを乗り回し青春を謳歌した時代が思い出されます。

数年間トンネルを始め橋梁、地下道など鉄道土木関係の仕事に従事していたが、長男であること等により斐川へ帰ることになった。地元で仕事をするときは地域の方々と一緒に働き、共に完成の喜びを知ることで地域に貢献している実感がいたしました。

まさか経営者になるとは思いもしなかったが、40歳頃から先代社長に連れられて代官町へ通う日が増えてきた。この頃から本当の私の人生が始まったような気がします。口下手な私が人前で挨拶をし、業界のお世話をさせてもらうようになって、会社も私自身も皆様方のお陰で成り立っていることが改めてよく判りました。我々の仕事には何が必要か思うようになり、手元にあった新渡戸稲造の“武士道”の本を後のバイブルとした。

「武士道はその表微たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である」の一文で始まる本でした。そこには日本における道徳とは外国人のもつ宗教と同じで国民の模範であり、日本人として歩むべき道であると教えた。また道徳を教える一つの道として茶道がありそれは総合芸術でもあるともあった。あれから20年、茶道のなかに感謝の意を見出し、私の供としている。

皆様は仕事では野武士のように｢強く｣生き成功を治め、現在もご活躍のことと存じます。また社会生活ではある程度の浄財や心のゆとりを元に高楊枝（たかようじ）を銜（くわ）えた武士のように「優しさ」を以って社会奉仕に活躍されているはずです。

「男は強くなければ生きて行けない　優しくなければ生きる価値がない」

この言葉を座右の銘として、生きる価値を求める日が続きます。

我々業界がいつまでも社会貢献が出来る団体であることを祈念し年頭とします。

年男の抱負

㈲神門組
手銭弘明

新年明けましておめでとうございます。

西暦2010年、日本経済は緩やかに持ち直しているという観測もありますが、地方においてはその実感は乏しく、依然として経営環境は厳しい状況が続くか、もしくはさらに悪化するのではという不安から脱却できないというのが現実ではないでしょうか。

今年は寅年、私事ですが、四回目の年男を迎えるに至りました。月日の経つ早さとわが身の成長の遅さ（心のこと）を痛感する昨今です。身のほうは着実に成長し、今や減退を迎えつつあり、同世代と話すとき、最近目が悪なってのぉ、おまえも老眼かぁ、おら歯も悪なったわぁとかいった話しが当たり前に出てくるようになりました。振り返ると、浦島太郎が玉手箱を開けたように、あっと言う間にこの年になっていたという心境になりますが、まだまだ四十、五十はハナタレ小僧、人生これから頑張ろうと新年の誓いを新たにしているところです。

さて、我々の業界を取り巻く環境といえば、不況といわれて幾久しく、デフレという避け難い渦にのみ込まれ、その渦潮は次第に加速していき、一所懸命もがいてようやくその場に留まれるといった状況が続いています。そこから抜け出すには、鯉のように滝を登る力を持つか、いっそのこと、とことん巻き込まれて身ひとつになって抜け出すか。（なんと辛い状況でしょうか。）100年に一度とか、いまだかつてないといった言葉で形容されるのも少子高齢化となり、尻すぼみ的な状況で何となく明るい要素が見いだせない不安定な状態だからではないかと思います。

しかし、安全安心の確保には、建設業が培った技術や経験的技能は絶やしてならず、世代を超えてそれぞれの地域で継承されて然るべきものと思われ、また継承されなければその確保は到底おぼつかないと考えます。

親が子供に語り継ぐように、故きを温ねてみるといろいろと教えてもらえるかも知れません。かつてこんなことがあったとか、いやいやそんなもの序の口ですよと。年男は、節分の時の豆まき係が役割とか。まめなが一番、まめなが一番と豆まきでもしましょうか。何が言いたいか訳がわからなくなっなったところで、正月の不摂生もほどほどに、今年も気分を新たに、笑顔で安全第一を心がけ頑張りたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。

技士会先進地視察報告

大福工業㈱
妹尾一臣

島根県土木施工管理技士会出雲支部では、建設工事の専門知識及び技術習得を目的とした工事現場視察を例年実施されています。今年度は、国土交通省中国地方整備局　斐伊川･神戸川総合開発工事事務所発注の「尾原ダム工事」現場の視察が平成21年10月14日に行われ、約50名の技術者が参加されました。私は、技士会役員と技術者の両方の立場で参加しました。

尾原ダムについての概要説明を尾原ダムＰＲ館及び展望台において、国土交通省中国地方整備局斐伊川･神戸川総合開発工事事務所の今岡課長様から詳しく、丁寧な説明を頂きました。

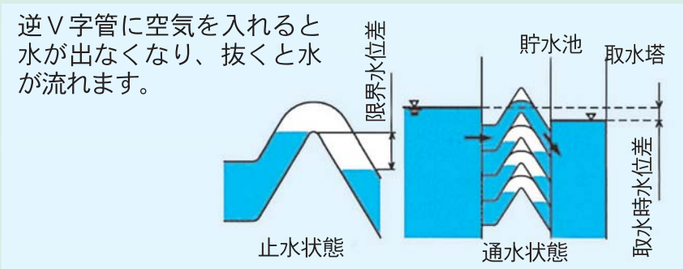
尾原ダム本体は、平成17年11月に転流工、平成19年8月に基礎掘削を終え、同年9月からダム本体のコンクリート打設を開始し、平成21年10月現在で全体打設量66万１千㎥（高さ90m）の内、早くも約58万㎥（約88%）まで進捗していました。

尾原ダムは、斐伊川・神戸川の治水対策（3つの柱）の重要な1本の柱であり、洪水調節・河川環境の保全・水道水の供給が目的で事業が行われており、新技術の導入によるコスト削減のための取り組みの他、環境保全への取り組みとして行われるイベントでは、斐伊川上流・下流の小学校児童が共同作業でどんぐりを竹ポットに植えつける苗づくりや工事現場に森づくりのための植樹等が行われ、交流の輪が広がっています。

視察中に最も興味を引かれたのが、尾原ダムのコスト削減及び維持管理の省力化を図るための新技術でした。特に新技術の連続サイフォン式取水設備は、鋼製ゲートや開閉装置を使用せず、空気の出し入れによる目に見えない新しいタイプのゲート方式が採用されていたことが印象に残りました。

今後も専門知識及び技術習得のため、最新の技術を駆使した工事現場・産業・研究所等の先進地に足を運びたいと思います。

連続サイフォン式取水設備



尾原ダムＰＲ館での概要説明

展望台から見たダム本体工事

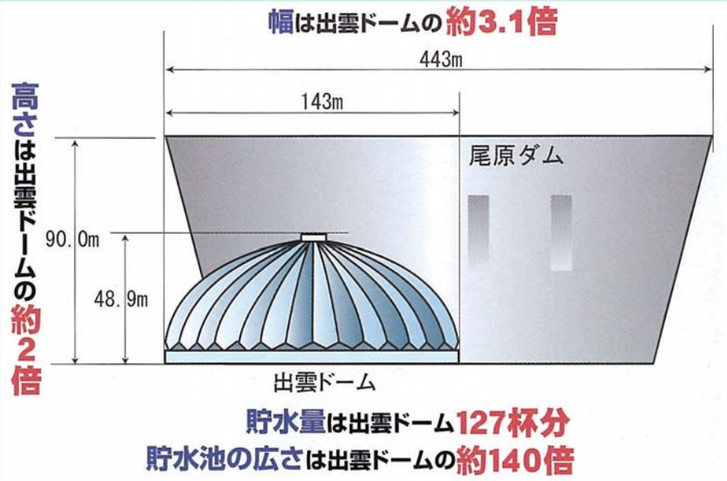
どんなダムができるの？

http://www.cgr.mlit.go.jp/hiikawa/obara/donnna/page/donnna.htm
（HPアドレス）より

尾原ダムの場合、ダムに流れ込む水の量が300m3/sに達するまでは流れ込む水の量と同じ量をダムから放流します。300m3/sに達した後から尾原ダムの計画最大放流量の900m3/sとなるまでは流れ込む水の量に一定の率をかけた量の放流を行い、計画最大放流量の900m3/sに達した後は900m3/sの一定量で放流します。

●ダムの高さ

尾原ダムの堤高（堰堤の高さ）は90.0メートルあります。



経営研修会に参加して

（社）島根県建設業協会出雲支部
原　佳文子

去る平成21年11月18日、心理カウンセラー野坂礼子さんの「笑顔と安全」の講習（出雲支部ＨＰに掲載中）を聴講させていただきました。

言葉のエネルギーと笑顔の効果について、楽しくお話しして下さり、何に対してもマイナス思考の私にとっては、とても参考になることばかりでした。

「ありがとうございます」という言葉には、運気を上げる効果があるそうです。確かにこの言葉は何度言っても、言われても心地よいものです。仕事でも家庭でもいつもこの言葉を気持ちよく言えることで、自分自身も周りの人たちの気持ちも明るく出来るような気がします。

今、私は子育て真っ只中であり、時間に追われる毎日を送っています。正直、気持ちの余裕なんてありません。子供たちに対しても「何やってるの！」「ダメじゃない！」などとマイナスの言葉ばかり投げかけています･･･。当然子供も反発してきます。それでまた叱る･･･。悪循環が重なり、「なんで私ばかり〜･･･」と自分の殻の中に閉じこもっている私でした･･･。

この日、子供たちに「よくやったね！」「すごいじゃない！」など…プラスの言葉をたくさんかけてみました。（意識的にですが。）

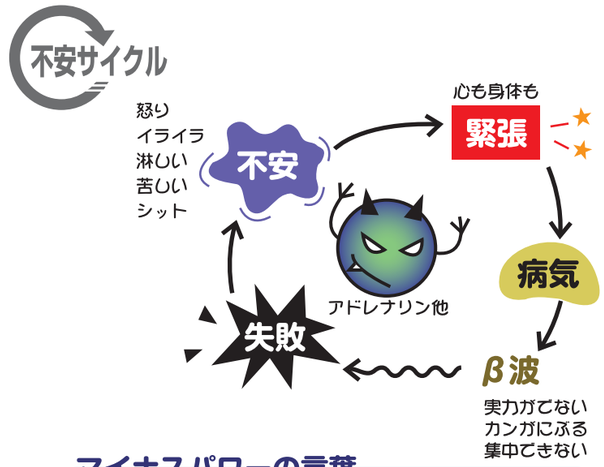
当然、子供たちはいい顔で笑ってくれ、甘えてきました。「ママ大好きだよ」なんて言われた時には親バカぶり丸出しでしたが（笑）イライラする自分は無く寝るまでの時間をとても気持ち穏やかに過ごせました。

言葉一つでこんなに変わるものなんですね。いつも頭では分かっていても･･･。の結果になってしまう私でしたが、この穏やかさが続き、良い親子関係を築けるように、「ありがとう」と言う事をまずは実践していこうと思います。

またそれは子育てだけでなく、仕事の場においても言える事だと思います。笑顔で明るい挨拶、笑顔で応対することで、外部からの印象はもちろん、職場内もプラスの言葉が飛び交えば明るくなります。そういったことからも職場としてのレベルアップにも繋がるのではないでしょうか。自らがプラス思考になることで周りにも良い影響を与えられるように頑張りたいと思います。

今年一年、「笑顔」と「ありがとう」で皆さんの運気がＵＰし、健康で幸せな生活が送れますようにお祈りいたします。

笑顔のエネルギー

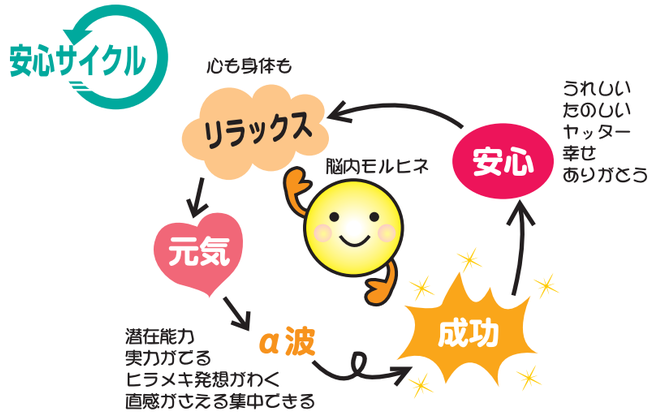


マイナスパワーの言葉

忙しい、疲れた	大変だ、マイッタ
難しい、つまらない	困った、苦しい、いたい
できない、いやだ、困難だ	つらい、腹が立つ
だめだ、お金がない	失敗した、やりたくない、しんどい
まずい、もう年だ	気持ちが悪い、さみしい
きたない	せつない、イライラする
どうしよう、バカだ	どうせ私なんか
不幸だ	

マイナス思考のころの私

これからどうしたらいいの。
子供を食べさせないかん。
私はダメな人
主人が悪かったのよ……。
またうまいこといかないわ。
ああ、今日も会社で叱られる〜。
楽しくない。
真っ暗や。
売れるわけないワ。
もう死んでしまいたい。



プラスパワーの言葉

充実している、簡単だ	やれる、できる、気分がよい
できる、楽だ	イケる、おいしい、明るい
お金がある	美しい、すてきだ、かわいい
まだ若い、大丈夫さ、やってみよう	愛している、愛されている
幸せだ、元気だ	やってみよう、さわやかだ、気持ちいい
楽しい、キレイだ、素晴らしい	おもしろい、利口だ、ラッキー、ハッピー

プラス思考になった私

私は楽しい。
未来は明るい。
私は売れるセールスマン。
笑顔がいっぱい
誰にでも大きな声であいさつをする。
自信がある。
うまくいく。
成功するやん！
運がよくなったやん！
みんなのおかげ！

テレビでおなじみの森田 実氏 講演内容「公共工事必要論」

「平成21年度雇用改善推進の集い」が平成21年11月19日（木）、松江市西嫁島のホテル宍道湖において開催されました。

主催者、来賓挨拶のあと、14：00～約1時間30分にわたって、**「公共工事必要論」**と題して政治評論家の森田実氏による講演が行われました。

森田氏は、テレビ出演や講演を主体に活動し、格言や引用を使いながら政治の動きを論評する独特のスタイルは、大変に人気があります。著書も多く、執筆活動で多忙の中、年間約300回という講演もこなし、東京都と地方の格差が日本をダメにするという持論を展開し、特に地方の講演に力を入れられているようです。

当日の、講演は我々建設業界にとって、必見に値する内容でしたので「建設会報」に掲載させていただきます。

森田　実氏　略歴

（2009.10.1現在）

政治評論家

1932（昭和7）年静岡県伊東市生まれ。東京大学工学部卒業。日本評論社出版部長、『経済セミナー』編集長などを経て、1973年に政治評論家として独立。著作・論文を著す一方、テレビ・ラジオ・講演などで評論活動を行っている。

【森田 実のホームページ】　URL＝http://www.pluto.dti.ne.jp/~mor97512
「森田実の言わねばならぬ」を毎日更新

【主な著作】『国家の貧困』（共著　日本文芸社　2009年9月30日刊）
『政治大恐慌　悪夢の政権交代』（ビジネス社　2008年12月25日刊）
『崩壊前夜　日本の危機』（日本文芸社　2008年10月刊）
『新公共事業必要論　港湾・空港の整備が日本を救う』（日本評論社　2008年10月刊）

【執筆活動】『コメントライナー』（時事通信社）
『時事トップコンフィデンシャル』（時事通信社）
『経済界』（「森田実の永田町風速計」）
『先見経済』（「森田実の温故知新」）
『日刊建設工業新聞』（「建設放談」）など

森田　実氏講演会「公共工事必要論」

（提供ー建設興業タイムス誌）

完全なる自由競争を実施したら日本の良さは崩れ去ると思う。なぜならば、日本は“和の社会”だからである。それは、日本人のルーツとも言える言葉が**「和をもって尊しとなす」**という聖徳太子の『十七条の憲法』の第1条の言葉だからだ。この言葉は多くの日本人の中で千数百年間生き続けてきた言葉であり、今後も消えるものではないのである。

私は静岡県の伊東市の出身で、5歳のとき、彫刻師のおじさんから聞いた言葉を今でも覚えている。それは**「一隅を照らすものは国の宝である」**という天台宗の開祖・最澄（さいちょう）の言葉である。つまり、日常生活における「人の助け合い」の思想であり、これを大事にしようという考え。これは千数百年間、日本国民の中に定着している考え方であり、これを一言でいえば「和と助け合いの社会」である。

これに対して「自由競争と自己責任」を掲げて対峙（たいじ）したのが新自由主義である。これは市場競争原理や規制緩和を徹底的に進め、小さな政府によって公的支出を極力縮小しようとするもので、英国のサッチャー、米国のブッシュ大統領をはじめ、各国の経済政策に大きな影響を与え、日本では小泉首相がこの言葉をよく使っていた。つまり、自由競争において勝った人は利益を得る、負けた人は去る。これを当然のこととして「負けた人は自分で責任を取りなさい」という論理である。しかし、この日本国はそうではないのだ。**みんなで協力し、助け合っていく。これが、狭い日本列島の極めて高い人口密度の中で生きている人間の生きる知恵であり、日本人の原点である。**この原点をぶち壊したら日本の中に混乱が起こるのは間違いない。

さらに、明治以降には、日本人の原点となる3つの言葉がある。1つは**「広く会議を興（おこ）し万機公論に決すべし」**。これは、五箇条の御誓文の第1条である。明治天皇が時代を切り開くときに宣言したものである。執筆者は由利公正と言われている。みんなで会議をおこして知恵を出し合い、その基に国や社会を作っていこうという考え方である。これは戦時中こそ無視はされたが、140年の歴史の中で日本国民の中に定着してきた。もう1つは、福沢諭吉の「学問のすすめ」の名言**「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」**。つまり、みんな平等に生きていこうという考え方である。この考え方が今の日本人の中に定着しているのである。

この2つの言葉に比べると、まだ十分に知れわたってないが**「国家の実力は地方に存する」**という明治の文豪・徳富蘆花（ろか）の言葉がある。つまり、**地方が栄えて初めて国が栄える、地方がしっかりしていれば日本は大丈夫なのだという思想なのだ。これらの言葉に表される日本的な魂。これが日本なのである。**だから、**日本は今後もこの5つの言葉に代表される思想のもとに生きて**

いかなければならないし、伝統というものは、そう簡単に消せるものではない。ただ、さまざまな変化や開拓は必要であるし、変化への対応も大切だが、**この5大原理というものを、われわれは今後も日本の基盤にしていかなければならない。**

しかし、「自由競争と自己責任」は、これをぶち壊そうとした。こういうことが私は日本を乱した大きな背景、原因であると思う。特に、政府の経済政策における役割を否定するというのは、日本の場合には罪に等しいことである。**不況になれば民間が需要を作り出すことはできない。そういう時こそ、国がやるしかないのだ。**国が借金できないと言っているのは、私は妄想だと思っている。今、日本において国債を発行して、国民が引き受けないということはない。日本の国民は引き受けられる力を持っているのだ。国内において政府が国債を発行し、国民がそれを持ち、利息をもらう。これは、海外から、とやかく言われる話ではなく、国内において完結している話なのだ。有効な事業を創るために資金が必要であれば、政府は財政支出ができる。良いか悪いかを越えて、それができるのは政府だけ。そのために、資本主義社会には政府が存在するのだ。だから、この不況時でも財政支出をすれば、多くの人が職に就くことができる。職に就いて働くことによって、自分と家族を守ることができるのだ。逆に、失業者が大量に増えて、社会が二分化される社会においては、健全なる批判とかモラルが成り立つはずがない。モラルが崩れれば社会は崩れるのだから。政治について１番古い諺（ことわざ）の１つは「政（まつりごと）は民を養うに在り」。これは書経（しょきょう）という中にあり、２千数百年前に作られた儒教の政治論の１つである。つまり、国民が安定して生活できるようにすることが政府の役割だということ。これは政治がある限り、政治の基本的理念であると思う。

東京の新聞社の諸君は「公共投資は駄目だ、何をやったらいいのか」などと言っているが、これはあまりにも無知である。今、政府にできることは公共工事なのだ。それは、将来を見た場合、結局は地球の資源という問題にぶつかっていくのだが、地球の資源で未知なる世界は海底にあるわけである。今、まだ調査段階だが、全世界は自国の陸地周辺の海底探査に入っている。そして、そこには豊富なる資源があり、新しい人類がもう一度成長できるためのエネルギー資源など、さまざまな資源があるということが分かり始めている。国境周辺の海洋開発が動き始め、全世界的に大々的な公共事業の時代が始まろうとしているのである。日本は国土の面積は世界で61番目で、人口は約10位だが、海岸線の長さは全世界で第６位である。この海岸線に富が蓄積されていることは分かっている。10年後か15年後かは別にして、やがてその時代が始まることは間違いないのである。

だから、私は最近の政府首脳の中に、もはや建設産業はいらないという意見を公然と吐く者がおり、そして責任ある立場の者が「51万社あるのは多過ぎる、20万社以下でいいから整理すべきだ」。そういう論理を指揮し、民主党のブレーンとなっている大学の有名な教授が「公共事業を14%減らしていけば、70万人の失業者がでるだろう」と予想している。だが、その70万人の失業者を出さないために何をすべきなのかということを彼は一切語っておらず、むしろ自業自得だと－。つまり「建設業界が自己改革をしてこなかったから、そういう運命に陥ってしまったのだ」というようなことを言っている。私は冗談じゃないと思う。こういう人間には社会科学を論ずる資格がない。社会科学の根底にあるのは人間愛であり、失業を許さないという思想なのだ。70万人の失業者が出ても構わないような、そんなばかなことを政治家に言わせ、また政治家も似たようなことを言っているようではどうしようもない。

資本主義の先進諸国の中で、日本以外は全力を挙げて景気を良くするために政府の財政支出を増やし、金融を緩和して、政府による公共事業を推進している。米国も公共事業を全力で推進し、西欧諸国も同様である。これ以外に失業者を減らす方法はないのだ。ところが、日本だけは公共事業を止めて、海外に進出できるところは出なさいと。そして、業種を転換して農業をやりなさいというようなことを言っている。しかし、東北や北海道あたりで20数年前から農業に進出してきた建設業者の話を聞くと、やはり限界がある。「できるものなら本業の建設業に帰りたい」。これが彼らの共通した言葉だった。

また、東京のスーパーゼネコンの人たちにも聞いてみた。10数年間、海外に出て一生懸命やってきた、中東に出ていろんなことをしてきたが、リーマンショック以降、それらはことごとく失敗に終わった。だから、国内に戻ってきたが、新政権の責任ある立場の者が「海外に出て行けと言うのでは、われわれは何をしたらいいのだ」と。これがスーパーゼネコンの反響なのだ。

ともかく、われわれはこのねじ曲がった暴論を改めさせなければならない。ただ、私が50年間生きてきた東京のジャーナリズムというのは異常化している。大新聞の経済部の諸君、特にデスクが絶対的な力を持っている。そのデスクによって見出しや原稿が書き換えられるわけだ。これらの諸君は公共事業に対する著しい偏見を持っている。彼らは財務省の実力者や日銀、巨大マスコミを取り込み、非公式なグループを作り、公共事業に対する否定的な運動を起こしている。そして、新聞の見出しには「公共事業は無駄である」などと打つ。私は必ずこれらの諸君に責任を取ってもらわなければならないと思っている。

さて、鳩山内閣発足以来、いくつかの選挙があった。10月25日に参議院補選があり、神奈川と静岡県では予想通り民主党が勝った。しかし、神奈川県での衆議院総選挙の結果から予想すると、民主党候補100万以上、自民党候補50万以下の票だろうというのが大方の予測だった。というのも、小泉構造改革の先頭を走った経済同友会のリーダーの諸君は総選挙が終わるや、「自民党よ、さようなら。民主党に行きます」と言い、今、経済同友会はみんな民主党である。そ

して「自民党にしか献金しない」と言っていた経団連ですら「これからは中立でいきます」と言い、中立でという裏側で民主党の小沢幹事長らと協議を続け、経団連でさえも民主党に移行しつつある。農業団体も医師団体も、その他の有力な中央団体もみんな同じ。これが東京で起こっていることである。そして、大新聞は今、テレビ局と資本系列が同じなため、ほとんどが鳩山政権を守る、早期には潰さないということで報道している。そのために東京の空気は一変した。自民党は本当に小さな勢力となった。しかし、神奈川県の参議院補選の開票結果は100対80。選挙研究をしている人たちは「意外と差が少ない」と感じた。

それを証明してくれたのが地方選だった。8月30日の総選挙では民主党の公認をとりさえすれば誰でも当選できた。その流れは続いているであろうという雰囲気で、10月中に各地で地方選が行われた。しかし、民主党公認で勝ったのは神戸市の谷田市長のみである。谷田氏は３党相乗りでは勝てないと考え、民主党１党支持をもらって楽々勝てると思って選挙に挑んだところ、蓋を開けてみたら、自民党系の無所属の候補者とわずかな差しかなかった。その他の選挙でも、民主党の候補者は敗れる傾向が続いており、意外な速度でもって、地方選での民主党熱は冷めてきている。

その最大の要因の１つは八ツ場ダムである。前原国土交通相の中止宣言は組閣翌日。これは衝撃的大ニュースとなり、大新聞が「前原、素晴らしい」と一斉に応援したわけである。ところが、これが実は大きなつまずきになっている。これは、あくまで民主党のマニフェストなのだ。マニフェストをそのまま国家の権力行使に使っていいのだという論理は違うということ。八ツ場ダムは、法律によって決められ、関連している都道府県が共同事業として実施してきた。日本の法律によれば、政党というものは１つの非公式な団体であり、マニフェストはその文書に過ぎない。その文書を使って国家権力を行使するのではなく、きちんと法律的、予算的な手続きを終え、地方自治体との話し合いも済んでから実行すべきものである。この手続きを踏まないのは非民主主義である。東京の大新聞社が「これでいいのだ」と言っているため、きちんとした法律的な議論は起きてないが、国民は「少しおかしいのでは」と気付き始めている。

一方、麻生内閣が提出した約15兆円の第１次補正予算は結局、事業予算を組めなかった。なぜならば長い間、公共事業は減らせ減らせでやってきたため、どういう公共事業をすればいいのかという知恵やストックがなかった。だから、基金に積んだのである。そして「この基金は何に使うのか」という質問に、麻生前首相は「地方のために使うのだ」と言い続けたものだから、地方自治体がそのように理解したのは当然である。国の補正予算に伴い、6月や9月の地方議会で補正措置がとられ、そして残っていた3兆円を12月議会で上程するはずだったが、その前に執行停止がかかり、3兆円は未執行であり、無駄だという名目を付けて取り上げたのである。

もっとも、その３兆円は当初、来年度の子育て手当の財源に補てんするということだったが、結局は来年3月までの第2次補正予算の財源に使うことになった。それだけ景気が切羽詰まっているということであり、政府も配慮せざるを得ないということで使い道を変えつつあるのだ。ここで大きいのは3兆円という額ではなく、長いこと地方自治体が「財政再建」「財政再建」でもって縮んでいたことにある。地方は、景気対策をやろうという発想はできなかった。できるのは財源が豊かな東京都だけで、他の46道府県は赤字である。日本国中の富が東京に集まり、東京だけが一極繁栄して他のところは疲弊するのだ。しかし、やっと15兆円の相当の部分を使えるというときに「止めなさい」と言われた地方が被った損害は、３兆円の何十倍であろうと思う。

民主党の言い方は地方分権ではなく、「地域主権」で行こうということ。しかし、そう言っている当人が、地方が使おうとする金を止めたのはおかしい。つまり、言っていることと、やっていることとが真反対なのだ。実は、このことが最近の地方選挙で民主党が勝てない大きな背景になっているのだ。民主党の幹部は、来年の参議院選挙で圧倒的勝利を収め、衆参両院で完全なる安定多数を固めて、半永久的な民主党一党体制を築こうとしているが、私は「驕（おご）れる者、久しからず」だと思っている。来年の参議院選挙で29ある１人区で民主党が勝てると思っているのなら、地方を知らなさ過ぎる。私は必ず敗れると予想しており、それは比例区にも反映してくる。ここで大きな変動が起こり、「鳩山政権はここまでだ」とはっきりと予言している。

また、雇用問題の現状を１番よく表しているのが、新卒者の就職難である。高卒者では、この前の時点で内定率が39%と半分以下だという。これでは希望が持てない。つまり、人間は職業を持って社会とつながるのだ。職業こそが人間生活のバックボーンであり、全てのバックボーンとなる。それを得られない人が増えているとすれば、もはや絶望社会であり、この世に希望を持てなくなるのは当然である。だから**「今こそ景気が悪いんだ。このままいくと大変なのだ」ということを認識し、他の国と同じように政府の資金を使って、政府の努力によって金融緩和を行い、倒産・失業をこれ以上増やさないようにしなければならない。**

これを何によってするのかというと、政府の公共投資によって行うべきだと思う。例えば、東京では電線の地中化が止まっている。また、災害等の対策で残っているものもある。地方では３年前の台風災害の復興予算がなくて、ふさがったままの道もある。私はわが国にはこのような個所がいくらでもあると思っており、そこに賃金を払うべきだと思う。戦後、日本国内には実質的に1000万人の失業者がいたが、１年後の統計では640万人まで減っていた。これは、当時の政府が国有鉄道に雇用を頼み、さまざまな所に雇用を頼むなど、まずは賃金を払うことが先決だという政策を取ったことで、わが国は復興できたのである。現在の日本では、ネットカフェ

難民や91万人の人たちが雇用保険をもらえなくなって失業者になっている。さらに、非正規雇用者を含めれば、実質的な失業者は相当数に上るはず。これらの人たちに賃金を払える状況を創ることが政府の直接的な責任であり、それが広くできるのは「公共事業」以外にないと考える。

しかし、前原国交相のインタビューなどを読んでいると、「建設会社を30万社程度減らしましょう」などと言っている。仮に、１社につき３人の失業者が出るとすれば90万人、５人なら150万人の失業者が出ることになる。そのようなことを奨励するのは止めてもらいたい。そして、災害対策については「切りがないので止める」と言い、さらに中山間地域と限界集落については「たとえ災害が起こっても災害対策は講じない」と答えている。まさに、前原氏には「頭を冷やしてくれ」と言いたい。

民主党の政治家というのは、今夏の総選挙までは112人ほどしかいなかったので、どのような経歴で国会議員になったのかということを大体知っている。実はアメリカで勉強して政治に目覚め、日本に帰国後、自民党に入党届けを出したが「間に合っているからお引き取りください」と言われて、民主党から立候補した人が非常に多い。そのような経歴を持つ人たちは、米国の共和党的な新自由主義的な思想の人が多い。ところが、自民党の小泉首相が登場し、民主党が主張している新自由主義を進めることになる。それで困ったのが当時の民主党代表・鳩山由紀夫氏であり、テレビで「小泉氏の背中を押したい」とまで言ったせりふは有名である。

だが、やがて小沢氏が出てきて「このままでは選挙に勝てない。選挙に勝つには、生活第一主義なのだ」と繰り返し、参議院選に勝って衆参のねじれを生み出し、この夏、待望の政権交代を果たした。そして、総選挙での大勝利後は、生活第一主義を言わなくなった。この生活第一主義という蓋がなくなったため、蓋の底にあった新自由主義が復活し、今の政治の主導権を握ったのだ。仙石氏、枝野氏、前原氏など、みんな新自由主義の共和党主路線である。彼らが主導権を持って、行われているのが、ダムをはじめとする公共事業批判であり、財政再建論であるのだ。

そして、マスコミの連中も実は新自由主義であるから、これを黙認しているのである。このことを正確に言い当てているのが小泉政権を支えた竹中氏である。先日のテレビ番組で、彼は「われわれと同じことをしている鳩山内閣は良い内閣だ。麻生内閣よりずっといい」と言った。また、小泉元首相も非公式ながら「俺のやろうとしたことをやってくれている」と言っているらしい。だから、**民主党政権は結局、政権交代という名の“新自由主義の復活”なのである。**

安心して暮らせる街！

編　集　後　記

2009年、我々建設業界にとってまさに天変地異といってもよい、大変な年であったと思います。

8月末の衆議院議員選挙の結果、民主党の大躍進により、民主党、国民新党、社民党の３党連立政権が誕生いたしました。

そして、「コンクリートから人へ」という、民主党のキャッチフレーズで公共事業は「悪」というイメージを植え付け、マニフェストが絶対だと言わんばかりにダム建設の中止、高速道路網予算の大幅削減等を打ち出しました。更には、全国50万社ある建設会社は、「半分くらいが適切である。」と言い、平成22年度予算も前年度当初予算比で14%削減という案が提出されております。

現在ある建設会社を半数に減らし、公共事業を大幅に減らせば、相当数の失業者が出るばかりでなく、内需拡大もおろか、多くの国民が路頭に迷うことになります。

昨年11月の「島根県建設雇用改善推進の集い」の講演で、政治評論家の森田実氏が『資本主義の先進国の中で、日本以外は全力を挙げて景気を良くするために政府の財政支出を増やし･･･』と言われ、また、失業対策として『賃金を払える状況を創れるのは公共事業以外にない』とまで言われました。こういう時期だからこそ、公共事業が必要なのではないでしょうか。

2010年は、どの様な年になるのか、見当がつきません。最近のマスメディア等の情報によりますと、鳩山内閣の支持率も急落しており、民主党政権がいつまで続くかわかりませんが、今まさに我々、(社)島根県建設業協会出雲支部は、社会、地域より真価を問われているのではないでしょうか。社会、地域からより信頼を得るために更なる努力が必要だと思います。

2010年が皆様方にとって、良い一年でありますように。

経営改善研究委員　　三 原　　昇